

「 自分にできること 」

鹿児島県 日置市立伊集院中学校 3年 小岡 諭依

「土砂災害は他人事ではない」

そう思ったのは、今年の春休みのことだった。私は母と日吉町の毘沙門自然の森公園というところに桜を見に行った。

「わあ、きれいだね。」

その日は、桜が満開でお花見をしにきた人が多くいた。桜もきれいだっただが、周りに田んぼや山もあつてのんびりするにはいいところだった。周りを見ると、「地すべり記念碑」というのが目に留まった。その記念碑には、「平成5年9月20日に人家を倒壊して住民5名を巻き込み、うち2名が死亡するという大規模地すべりが起こりました。」と書いてあった。私の住んでいる日置市で過去に土砂災害があったということに驚いた。そして、死者がいたと書いてありさらに驚いた。なぜ、今まで知らなかったのだろうと思った。

帰宅してから、どうしても気になったので調べてみた。インターネットで調べてみると、山の半分が崩れていてそこから土砂が一面に流れ込んでいる写真や土砂の下敷きになって家が曲がっている写真があった。その写真を見てとても心が痛んだ。地すべりが起こった日は8・6水害が起こった年と同じ年だった。地すべりが起こった場所は日吉町と伊集院町との境にある矢筈岳の西側で、その日の降水量は9ミリ、一週間の総雨量15ミリだったそうだ。私は地すべりが起こった日は今までにない大雨かと思っていたが、そこまでの大雨でないことを疑問に思った。

地すべりの原因は7月から9月にかけての集中豪雨や台風に伴う大雨だった。また、地すべりが起こった時間は午後7時50分頃。私ならその時間は夜ご飯を食べている時間だ。そこに住んでいた人もおそらく夜ご飯を食べていたと思う。まさかそこまで雨が降っていない日に地すべりが起こるなんて絶対思わなかったはずだ。

また、今年の8月には、始良市でも土砂崩れによって亡くなった方がいた。近くに住んでいた人はインタビューで、「この地区ではそういう大きい土砂崩れは今までなかった。」と話していた。

このことから土砂災害はいつ、どこで起こるかは分からないということを改めて感じた。大丈夫だと思っても土砂災害は起こるときには起こる。そこで、土砂災害から身を守る方法はないかと思い、日置市のハザードマップで調べてみると前兆には次のようなものがあると書かれていた。

その中の3つあげると、1つ目は雨が降り続けているが川の水位が下がる。2つ目は異様なにおいがする。（土臭い、木のおい等）3つ目は山鳴りがする。この3つは、視覚や嗅覚、聴覚で感じられるものだと分かる。

そして、毘沙門地区で起きた地すべりで3人が救出できた理由は、当時消防団だった人が地域のひととの交流があったからだと言われている。私はこれを読んで地域での交流が人の命を救うことができるのだということを知った。地域で交流するということは土砂災害だけでなく他の災害にも役立つと思う。しかし、最近ではコロナなどがあり、地域での交流が難しくなっている。だから、例えば朝にすれ違ったときにあいさつをしたり、地域の行事に参加したり簡単なことからでも交流ができると思う。

私は土砂災害が身近なところで起きていたことを知り、土砂災害は他人事ではないと思った。私自身も土砂災害から命を守れるように定期的にハザードマップで危険なところを確認し、すぐに避難できるように準備をしたい。また、毘沙門地区で地すべりが起きてから今年で32年が経つ。私のようにこのことを知らなかった人がいるだろう。毎年、土砂災害が多くの人命を奪っていく。過去に起こったことを、もし自分だったら何ができたかと考えようと思う。そして、私も当時消防団だった方のように、地域での交流を大切にして、もし土砂災害が起きた時に1人でも多くの命が救えるような行動ができる人になりたい。